



学校だより

令和5年3月13日
市川市立第六中学校
校長 渋谷 敬二

【予餞会、卒業式準備について】

3月10日、卒業生214名の旅立ちの日は快晴で暖かく、最高の日和となりました。これまでに1、2年生は予餞会や卒業式準備をとおして、3年生に感謝やお祝いの気持ちを伝えてくれました。卒業式には参加できませんでしたが、その思いは確実に先輩たちに届いており、3年生代表のメッセージの中にも触れられていました。予餞会の出し物はどの学年も素晴らしく、3年生からは驚きや喜びの声があがっていました。特に、実行委員の人たちの頑張りは素晴らしく、企画も当日の運営も驚くほどのクオリティーでした。教室、廊下や通路、体育館の装飾も工夫された暖かいものでした。おそらく、かなりの時間をかけ、苦労の連続だったことと思います。ここにも六中生の「やさしさ」と「たくましさ」が感じられました。1、2年生の皆さん、本当にありがとうございました。

なお、各学年とも3月20日の保護者会で、その様子を映像で保護者の皆様にもご覧いただく予定にしています。ぜひ、お越しいただければと思います。



大活躍の実行委員メンバー



掲示作品の一部を紹介します。他にも、3年間の行事を3年生の写真で振り返る掲示物もありました。

【感染防止対策について】

前号でもお伝えしたとおり、本日（13日）よりマスクの着用は個人の判断とすることを基本として、感染防止対策を実施していくこととなりますが、学校においては令和5年4月1日からの実施であるとされています。本校においても、3月下旬までは従来の指針のとおりとなりますので、ご理解のほどお願いいたします。

なお、本日以降は、校内でマスクを着用していなくても、感染リスクを低減できない場合を除いて無理に着用をすすめることはございませんので、併せてご理解願います。

※これまで続けてきた健康観察表の記録や提出は3月24日をもって終了します。

【防災教育について】

東日本大震災が起こった当時は、我が家の避難対策は大丈夫か、家の中を再点検したり、保存食を確認したり、避難場所や避難方法について家族で話し合ったりしたご家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、年月が経ち、大地震に対する危機感の風化は認めざるを得ません。「天災は忘れたころにやってくる」という言葉すら心の隅にしまいがちです。

市川市では3月11日を「防災教育の日」と制定して、生徒たちに「自分の命は自分で守る」ことができるように、心構え、知識、技術について指導をしています。シェイクアウト訓練、災害についての学級指導や全校指導、教育長メッセージ、防災給食などを毎年行っています。近い将来大地震が起こる確率はかなり高いといわれていますが、日ごろから危機意識を持ち続けることは簡単ではありません。3月11日という特別な日に犠牲者への思い、命の尊さ、命を守ることへの備え等について改めて思いを寄せ、点検することは大切であると思います。